

平和祈念展 in 山形

展示資料からたどる

戦争の記憶

特別公開
体験者が描いたシベリア抑留

日本へ引き揚げる際に4歳の娘に着せようと、
母親が亡くなった赤ん坊の布おむつで作ったワンピース

シベリア抑留者が飢えに耐えかね、
袖の部分をバンと交換した防寒外套

《父と子の1942年》 宮崎静夫

1942

2026
10月7日(水)
17時(入館は16時30分まで)
※13日は休館日
17時(土)

会場

山形美術館 第1展示室
(山形県山形市大手町 1-63)

入場無料

※山形美術館常設展は有料となります

主催：帰還者たちの記憶ミュージアム(平和祈念展示資料館[総務省委託])

後援：山形県、山形県教育委員会、山形市、山形市教育委員会、山形美術館、山形新聞・山形放送、河北新報社、読売新聞山形支局、

朝日新聞社山形総局、毎日新聞山形支局、NHK山形放送局、山形テレビ、テレビユー山形、さくらんぼテレビ

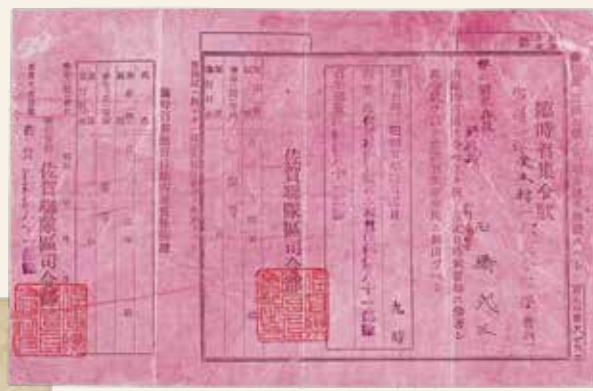
お問い合わせ：帰還者たちの記憶ミュージアム Tel. 03-5323-8709

帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館／東京都新宿区）は、さきの大戦における兵士、戦後強制抑留者（シベリア抑留者）、海外からの引揚者が体験した出来事をより多くの人たちに伝えるため、全国各地で展示会を開催しています。

本展では、当ミュージアムが所蔵する代表的な資料の展示に加え、山形県ゆかりの資料をあわせて紹介します。また、特別展示として、シベリア抑留の体験者が描いた絵画作品を紹介するコーナーを設置します。これらの展示を通して戦争体験を伝えるとともに、その記憶を次の世代へつなぎます。

兵士

国のために家族を残して戦地に向かい、命をかけて戦い、苦しくつらい体験をされた方々です。



戦争や事変の際、自宅待機している男性を軍隊に呼び出すために発行された臨時召集令状（赤紙）

戦後強制抑留者

（シベリア抑留者）

戦争が終わったにもかかわらず、シベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルの寒さが厳しい地域において、わずかな食べ物と劣悪な環境の中で、過酷な労働に従事させられた方々です。



満洲から日本へ引き揚げる途上で母娘が背負ったリュックサック



海外からの引揚者

敗戦によって生活のすべてをなくし、命さえ危険な状況で、必死の思いで日本に戻ってこれた方々です。

山形県出身の抑留者がソ連の収容所から故郷の家族に送った往復葉書

特別公開

体験者が描いたシベリア抑留

抑留者が帰国後に自らの体験を描いた絵画作品を紹介。収容所で過ごした過酷な状況や、当時の心情を克明に伝えます。



《最初のラーゲル》佐藤清



《飯盒と水筒》川上貫一

ギャラリートーク

[予約不要 参加者には記念品を進呈]

帰還者たちの記憶ミュージアムの学芸員が展示の見どころを解説します。

10月7日(水)・10月17日(土)

両日とも14:00 開始 (約40分)

山形県に関連する戦争資料の展示



『シベリア抑留者の想い出 絵巻 (上)』澤田精之助
提供：小さな小さな平和祈念館

山形県出身のシベリア抑留者が自身の戦争体験を絵巻に描いた資料や、山形県から満洲に渡った人物の体験記などを紹介します。

協力：山形県健康福祉部
地域福祉推進課



山形美術館 第1展示室

(山形県山形市大手町 1-63)

▶ JR山形駅（東口）から徒歩15分

▶ バス

山形駅から「天童（荒谷経由）」行、「山寺」行より約5分、美術館前下車徒歩3分
ベニちゃんバス「中心市街地」行（約15分おき運行）で約12分、霞城公園（大手門パルス）前下車、徒歩4分

▶ 車

山形自動車道「山形蔵王IC」から約15分

※山形美術館北側に無料駐車場がございます。
※美術館前の山形市大手町駐車場は有料です。



帰還者たちの記憶ミュージアム
MEMORIAL MUSEUM FOR SOLDIERS, DETAINEES
IN SIBERIA, AND POSTWAR REPATRIATES
平和祈念展示資料館 [総務省委託]

お問い合わせ

東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル33階 Tel. 03-5323-8709
<https://www.heiwakinen-go.jp>



@heiwakinen

